

# 産官学が連携し支援を進め獣害ゼロ！

## ～加西市畑第一営農組合～

### 課題

- ・侵入防護柵が整備されているにもかかわらず被害が減らない。
- ・農作物被害の増加による営農意欲の減退。耕作放棄地が増加する恐れ。



### 取組内容

・加西市は令和2年10月、同市畑町を「住民主体の獣害対策モデル集落」として位置づけ、兵庫県、兵庫県立大学、鳥獣防止機器製造メーカー等の協力を得て対策チームを立ち上げ、関係者一丸となって集落が実施する獣害対策を支援。

・モデル集落の畑第一営農組合は対策チームの支援を受け、獣害（イノシシ、シカ）対策を改善・強化。

#### 【ワークショップの開催】

・獣害対策に詳しい専門家を招いて、ワークショップを開催し、害獣の生態や他地域の成功事例を交えながら、関係者一丸となった侵入防護柵の管理と捕獲の必要性に関する共通認識を醸成。

#### 【見回り体制の改善・強化】

・令和3年度より、組合員を中心に、侵入防護柵の点検回数を増やし、老朽化や害獣の侵入による破損個所のメンテナンスを徹底。

・さらに、令和4年度より、当番制で6～10月の間、定期的な見回りを実施。

#### 【侵入防護柵の改善】

・令和3年10月から、侵入防護柵の下部からの潜り込みを防ぐため、地上15～20cmの高さに電気線を敷設する「メッシュガイシ」を使用した「スマート電気柵」を設置（集落の外周2.4km、24時間通電）。

・「スマート電気柵」は、ICTを活用したシステム（電気柵電圧管理システム）を使用しており、獣害や倒木等による電圧低下があれば、関係者がスマートフォンで確認。

・令和6年度から侵入防護柵の更新（ロール式の金網）を行っており、令和8年度に終了予定。

#### 【集落捕獲】

・組合員のうち、3名が狩猟免許（箱わな）を取得。

・狩猟期以外の6～9月に箱わな3基を設置し、令和6年度はイノシシ3頭、令和7年度はこれまでにイノシシ1頭を捕獲。



侵入防護柵の点検状況



ワークショップ



侵入防護柵（高さ2m）



メッシュガイシと電気柵

### 成果と今後の目標

・スマート電気柵は、地面から低い位置（イノシシ等の鼻先）に電気線があるため、地際からの侵入を完全に防止できていること及び集落捕獲の実施により、令和4年から畑第一営農組合のほ場では、獣害が無くなった（被害額 令和2年度2,518千円→令和3年度1,540千円→令和4年度以降 0円）。

・システムからスマートフォンに電圧低下の通知があるため、通知がない時の見回り回数を減少することができ、効率化が図れている。

・畑第一営農組合の取組の効果は他地域にも認識されてきているため、今後、対策の方法や効果の周知に努め、加西市内での獣害の軽減につなげていきたい。